

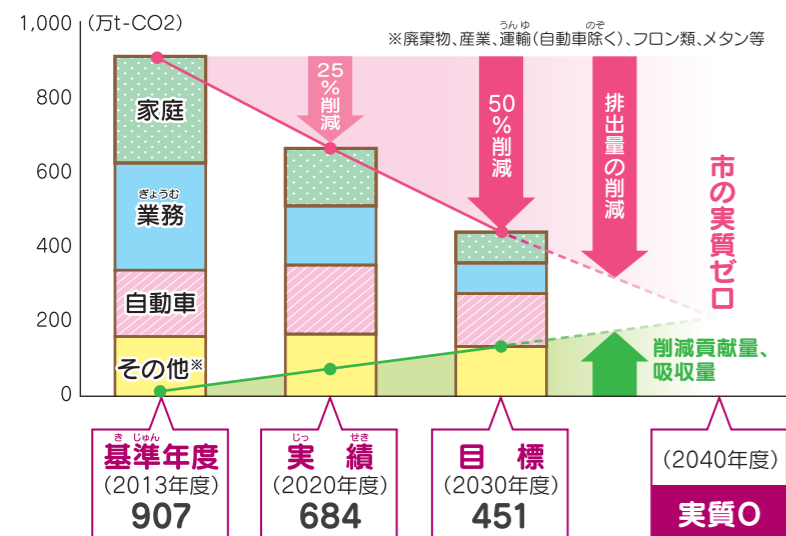
脱炭素社会の実現に向けた福岡市の目標

(日本の目標)

日本では、2020年に世界に向けて、「脱炭素社会の実現に向け、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする」と表明(カーボンニュートラル宣言)し、2030年度には温室効果ガスを2013年度と比べ**46%削減**する目標を決めました。

(福岡市の目標)

福岡市は、世界や日本がめざすカーボンニュートラルに積極的に取り組むため、「**2040年度 温室効果ガス排出量実質ゼロ**に向けたチャレンジ」を表明し、**2030年度**の温室効果ガス削減目標を**国の46%より高い50%**とし、さまざまな取り組みを進めています。



排出量とは

省エネや再生可能エネルギーを活用しても発生してしまう温室効果ガスの量

削減貢献量、吸収量とは

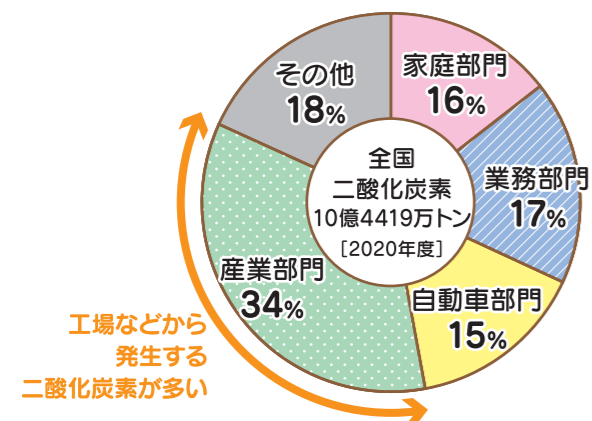
森林や海洋などによる吸収、エネルギー消費や海外での廃棄物埋立技術「福岡方式」などによって、削減できたと推定される温室効果ガスの量

福岡市の温室効果ガスの特徴

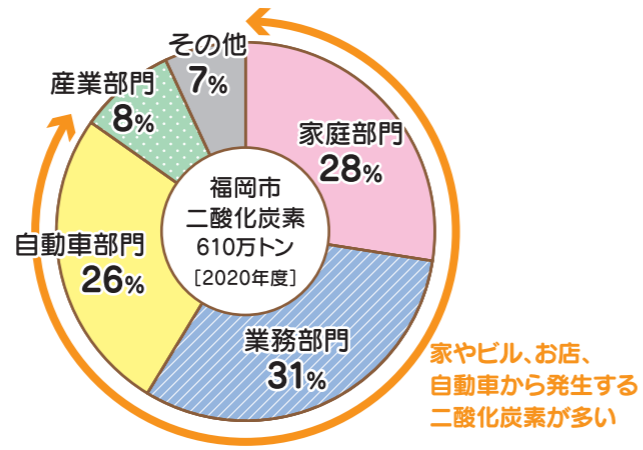
日本全体の二酸化炭素排出量は、工場など産業部門からの排出が最も多いですが、福岡市は、商業やサービス業が多いため、家やビル、お店、自動車から発生する二酸化炭素で市内の

約85%を占めるという特徴があり、脱炭素社会実現に向けては、市民一人ひとりの行動がとても重要です。

日本の温室効果ガス排出量 (2020年度)



福岡市の二酸化炭素排出量 (2020年度)



工場などから発生する二酸化炭素が多い

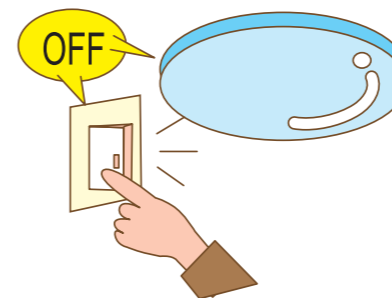
家やビル、お店、自動車から発生する二酸化炭素が多い

福岡市の取り組み

ECOチャレンジ応援事業

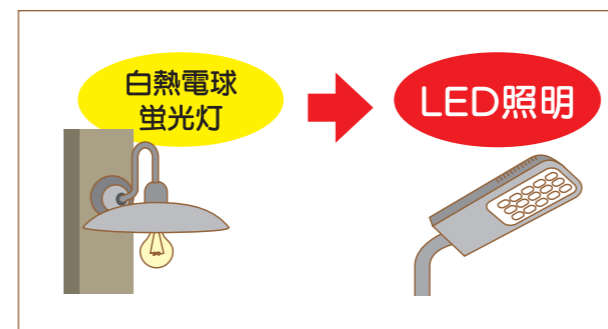
家庭で電気やガスを節約すること、省エネ家電の購入、環境イベントへ参加して環境について学ぶことなどの省エネ行動に取り組んだ場合に、交通系ICカードで使えるポイントを獲得できる事業です。

みんなの省エネの取り組みを応援します。



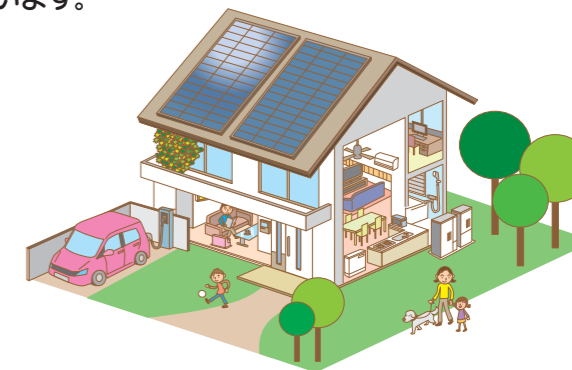
LED照明の導入

道路照明や地下鉄の駅の照明などをLED照明に交換しています。白熱電球や蛍光灯をLED照明に交換することは、消費電力を抑えて二酸化炭素排出量を減らすことにつながります。



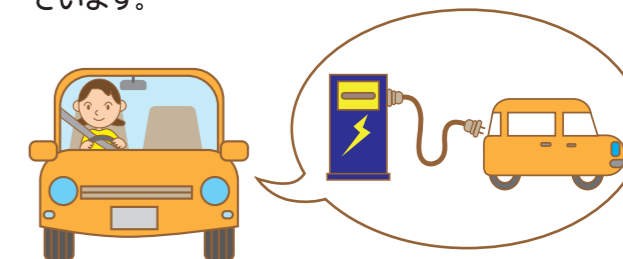
蓄電池等の設置費用を助成

太陽光パネルでつくった電気を貯めることができる「蓄電池」、ガスを使って電気をつくり、発生した熱でお湯をわかすことができる「燃料電池」等の設備を設置する際の費用の一部を助成しています。



電気自動車の購入費用等を助成

電気自動車等を購入する際の費用や、車に充電を行うための設備を設置する際の費用の一部を助成しています。



電気自動車

電気力で走る自動車です。走る時に騒音も小さく、二酸化炭素や排気ガスを出さない環境にやさしい車です。

世界初 福岡市水素リーダー都市プロジェクト

福岡市では、下水汚泥を処理する過程で発生するバイオガスから電気のほかに水素をつくり、燃料電池自動車 (FCV) へ供給する世界初の水素ステーションを開設しています。FCVが地球を1周以上(42,000km)走行できる水素を1日で製造することが可能です。

